



さかな 魚にはまぶたはないの、まばたきしないの

まぶたは、水のないところでは、大切

人間やイヌなどの目を考えてみると、まぶたは大切です。イヌでも、人間でも、目に何かがついてきたとき、思わず、まぶたを閉じて、目を守ろうとしています。ごみが入るのを、防いでくれているのです。また、目の中は、たえず、なみだでうるおっていて、目の表面がかわかないようになっています。目の表面がかわくと、目がちかちか痛くなったり、目の表面に、傷がついたりします。なみだが、目の表面を守っているのです。

さかな 魚は、目をぬらす必要がない

目の表面がかわいてくると、たいてい、知らないうちに、まばたきをして、まぶたの開け閉めで、目の表面をぬらしています。ところが、魚は、水の中にいます。わざわざ、目をぬらさなくても、目はぬれています。だから、たいていの魚は、まぶたがなくてもこまりません。そして、たいていの魚には、まぶたはないのです。まばたきも、できません。魚がねているときは、目は開いたままです。

まぶたをもった魚もいる

フグの仲間には、まぶたのようなものをもっています。でも、つついても、まぶたが閉じられるのに20秒近くもかかるくらい、ゆっくりです。サメやボラの目を観察すると、うすい膜がかぶさっています。でも、これは開け閉めできず、目を守る役目をしています。フグのまぶたは、フグがねているときも開いたままです。（監修・安部 義孝）

